

披露されたが、この機能性パーツが果たした役割も大きかったのではないだろうか。以前は全日本ロードレース選手権のS1000RRクラスでスズキGSX-R1000で活躍していた寺本だが、最近国内のレースに出場するのは昨年8時間耐久レースだけにしている。主に戦いの場を海外に移しているからだ。寺本の主戦場は世界耐久選手権、フランスで行なわれる24時間耐久レースにも出場している。

一昨年の鈴鹿8耐で同じビッドだったフランスの元ファクトリーライダー、ステファン・クワテルの誘いで2010年の世界耐久選手権シリーズ後半戦のポルドール24時間耐久レースに出場する機会を得た寺本。その際の走りか認められ、昨シーズンも同じレースに出場し、今シーズンはポルドール24時間耐久レースとルマン24時間レースに海外のチームからBMW S1000RRで参戦する。さらにフランス国内選手権のFSBKにもスポーツ参戦し、こちらのレースではカワサキX16でスピードスポーツクラスに参戦しているのだ。

灼熱の戦い

35th Anniversary

世界最久のライダーとして活躍する傍ら、T-REVの開発、製造、販売を一人でこなす。全国のバイク用品店に出向き販売活動もしている

寺本幸司

「クワテルのクラクケース内圧をコントロールするパーツで、シフトダウン時にエンジンブレーキが効き過ぎる現象を緩和する」とをねらっている。4ストロクエンジンはピストンに押し下げられたときに、一部の燃焼ガスがピストンリングを突き抜けてクラクケースに流れ込んでしまう。これをローライカスと呼ぶが、このローライカスは本来、クラクケースに付けたナイリザーホースから排出される。ピストンが上昇するときやアクセルオフのときはこのナイリザーホースから今までは外気が吸い込まれ、クラクケース内は高圧状態のままとなってしまう。この高圧状態がピストンリングの抵抗となり、いわゆるエンジンブレーキとなるのだが、時としてそれは必要以上の抵抗を生じ、後のホンダリングや低速時のトン付きを引き起こしてしまう。

そこで、T-REVはワンウェイバルブを用い、ローライカスを排出方向の一方に向きすることで、クラクケース内の圧力を下げる方向つまり減圧にコントロールしているのだ。減圧するということは空気の密度を下げることになり、ピストンやクラクケースなどが動かない状態を維持する。例えば、宇宙飛行士が宇宙空間へと飛び続けるとき、これは真実状態で空気の抵抗がないためです。つまり圧に抵抗がなくなるのであれば、クラクケースも物体が動く際の抵抗がなくなり、回転がスムーズになる動作に移れます。このような状況はストリーミングマンだけでなく、サーキット走行を楽

全日本から世界へ独自の道

今、カスターパーツの中心が注目を集めているのがクラクケース内圧コントロールの「T-REV」だ。T-REVはマラーのちにハイアープを目的としたカスターパーツではなく、エンジンブレーキの緩和と低スムーズなエンジンフィリングを得るための機能性パーツである。このT-REVを開発、販売しているのはレーシングライダーの寺本幸司だ。今年の8耐に寺本は酒井大作が新たに立ち上げた「チームモトランド39」からBMWのS1000RRで参戦し、共に出場した。予選は19番、そして決勝レースは11日朝7時、走りでトプルが発生し心配されたが、見事上位完走を果たした。「チーム」としては決勝で、折入賞が目標だったが、今年の順位からすると、トップ10は難しく、僕自身は思っていました。しかし、その目標をなんとか達成できました」と話す寺本。今回8耐で駆ったマシンにはT-REVの進化版「T-REVαシステム」が新たに

井大作が新たに立ち上げた「チームモトランド39」からBMWのS1000RRで参戦し、共に出場した。予選は19番、そして決勝レースは11日朝7時、走りでトプルが発生し心配されたが、見事上位完走を果たした。「チーム」としては決勝で、折入賞が目標だったが、今年の順位からすると、トップ10は難しく、僕自身は思っていました。しかし、その目標をなんとか達成できました」と話す寺本。今回8耐で駆ったマシンにはT-REVの進化版「T-REVαシステム」が新たに

「T-REVの購入者圧倒的テストリピーターの方が多く、しかもこちらがいえばバイクの構造を理解している人ばかりです。ですから、まずはその効果を体感してもらいたいことが重要です。効果を体感してもらえば、その効果は納得してもらえます。寺本が開発したT-REVは、いったいどんなパーツをのぞくのか。これは、4ストロク

寺本幸司が開発した内圧バルブ T-REVαにバージョンアップ

寺本自動車

最近では世界耐久ライダーとして活躍している寺本幸司 彼にはレーシングライダーのほかにビジネスマンの顔がある 自ら企画開発し、製造販売しているT-REVの普及が 今年の8耐では改良型のT-REVαを使って見事8位入賞を果たした

写真/赤松 孝、長野浩之、水谷たかひと 文/川上遊人

「T-REVαシステム」が新たに

「T-REVαシステム」が新たに

さらに進化したαシステムとは

一方T-REVは、ピストンの上下動でクラクケース内の気圧変化を激しいシッ

「T-REVαシステム」が新たに

「T-REVαシステム」が新たに

ライダー&ビジネスマン 寺本は世界へ羽ばたく

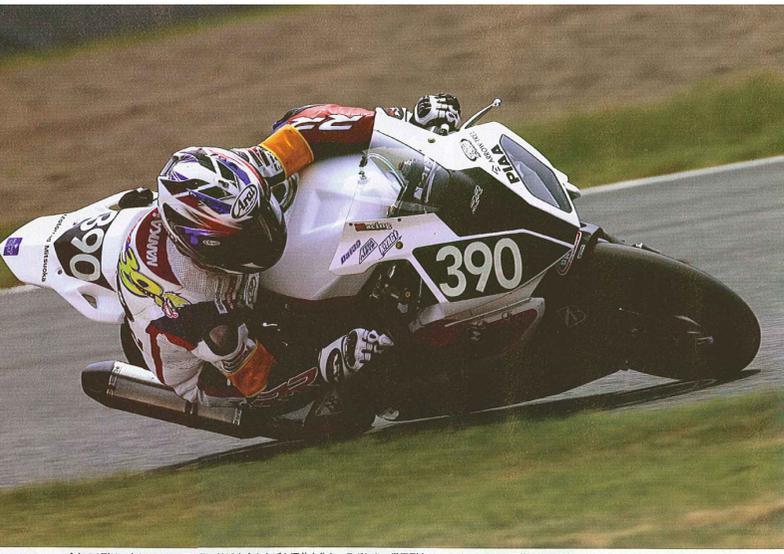
しむユーザー、ツーリングメインのユーザーにもその効果は大きく、お勧めです」

なお、4気筒も旧車と呼ばれる形式の車両であれば、従来のT-REVで十分な効果は体感できます。また、ロードバイクは、4気筒以上用は0.05mm厚、シングル、ツイード用は0.07mm厚にするによってより効率的に減圧効果をもたらすといふ。

チームモトランド39のマシンには、合同テストのときからαシステムを装着したそうだが、チームメイトの酒井大作もその効果が高く評価していたという。減速がスムーズにもつながり、さらには蓋が加速動作に移れるようになり、速く安定したスプリングを刻むことができるようになる。今年の8耐はまさに、T-REVαシステムの効がさら

2012 鈴鹿 8耐 T-REV サポートチーム

7位	090	Teluru&EMOBILE☆KoharaRT	CBR1000RR
8位	390	Team Motorrad39	S1000RR
16位	75	Team EBATA	CBR1000RR
28位	87	BANNER RACING	1098R



今年の8耐は、自らのチームモトランド39を立ち上げた酒井大作とコラボした。世界耐久チャンピオンである酒井と共に見事に8位でチェッカーを受けた

「T-REVαシステム」が新たに

「T-REVαシステム」が新たに

「T-REVαシステム」が新たに

「T-REVαシステム」が新たに



S1000RRに装着されたT-REVαシステム。シッターヘッドの二次エア還元装置と漏れ防止、排気ガスの内圧を積極的に減圧させている